

**銅・アルミレポート**

橋本アルミ株式会社取締役  
**橋本 健一郎**

2月の銅の概況及び3月の見通し (3)

予想レンジ		
LMEセトル	8,500-9,500ドル	●
建値	120万円-137万円	●
為替	135円~140円	● 円安

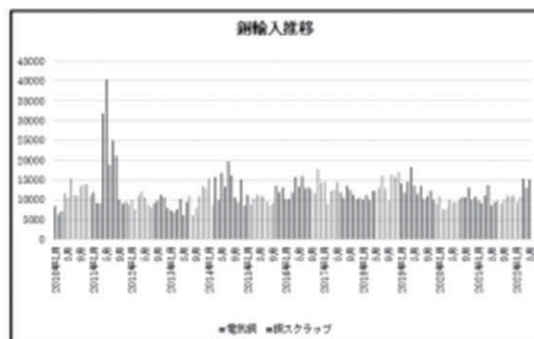
(1か月間TTM)

## 【輸入】

電気銅は-56.4%の130 t。スクラップは+29.1%の1万1,828 t。

輸入	11月	12月	1月
電気銅	639 t	28 t	130 t
前年比	+44.4%	-95.7%	-56.4%
スクラップ	1万1634 t	1万665 t	1万1828 t
前年比	+18%	+2.5%	+29.1%

## 輸入推移



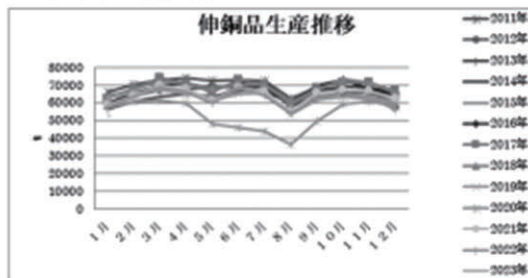
出典 財務省 貿易統計

## ■前月の国内指標

## 【伸銅品生産】

1月伸銅品生産量の速報値は前年同月比8.6%減の5万2,580トンで、2か月連続で6万トンを割り、13か月連続のマイナスとなった。

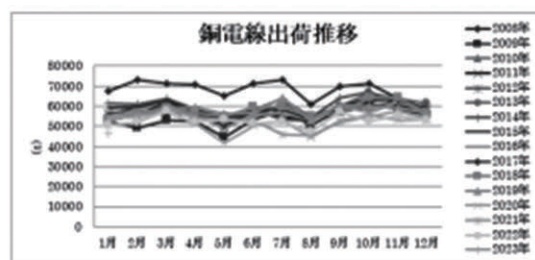
1月としてはリーマンショック後の2009年(45,356トン)以来の低水準。



出典 日本伸銅協会

## 【日本電線工業会発の出荷速報(推定)】

前年比-6.2%の4万6,600 t。  
内訳は国内が-5%、輸出が-56.2%。



出典 日本電線工業会

## ■国内概況まとめ

## 【自動車生産】

生産動態統計によると1月の自動車生産台数は前年比+13.4%の58万5,935台。

輸出は前年同月比-4.9%の23万7,288台。

## 【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると2月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+26.3%の26万9,837台。

内訳は乗用車が+28.1%、貨物が+13.8%、バスが+47.4%。

## 【住宅着工戸数】

1月の新設住宅着工は、持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比6.6%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比5.5%の増加となった。

○新設住宅着工戸数は63,604戸。前年同月比6.6%増、4か月ぶりの増加。

○新設住宅着工床面積は5,075千㎡。前年同月比2.2%増、5か月ぶりの増加。

○季節調整済年率換算値では893千戸。前月比5.5%増、2か月連続の増加。

## 【伸銅品生産】

1月伸銅品生産量の速報値は前年同月比8.6%減の5万2,580トンで、2か月連続で6万トンを割り、13か月連続のマイナスとなった。

1月としてはリーマンショック後の2009年(45,356トン)以来の低水準。3か月連続で対前年比プラスとなった銅管など一部に回復傾向がみられたものの、スマートフォンやデジタル家電の低調を映した主力の銅条などの不振が響いた。

1月の伸銅品は14品目中9品目で前年同月実績を下回り、黄銅線、青銅板・条、黄銅条の3品目は2ヶケタの落ち込みとなった。

## 銅条

5ヶ月連続の対前年比マイナス(▲6.4%; 対2019年▲5.4%)。

半導体の車載向は安定しており、自動車端子・コネクタの部品在庫消化が進むが、炭素もりに需要に関連したスマートフォンやデジタル家電の低調が続く。

## 黄銅棒

13ヶ月連続の対前年比マイナス(▲9.5%、対2019年比▲17.3%)。1月としては2009年(11,841トン)以来の低水準。住宅設備関連需要のうち、設備向けバルブや水栓金具の一部で動きが見られるが、ガス機器、水栓金具、バルブなど多くの分野での部品在庫増を受け低調が続く。

## 【電線】

前年比-6.2%の4万6,600 t。

内訳は国内が-5%、輸出が-56.2%。

## 銅

## 【輸出】

電気銅は-8%の4万4,320 t。

スクラップは-15.5%の1万5,502 t。

## 【輸入】

電気銅は-56.4%の130 t。

スクラップは+29.1%の1万1,828 t。

## 【見通し】

## 【自動車】

1月の自動車生産が+13.4%。2月国内販売台数が前年比+26.3%。生産、販売共に回復の兆しあり今後に期待。

## 【伸銅品生産】

1月伸銅品生産量の速報値は前年同月比8.6%減の5万2,580トンで、2か月連続で6万トンを割り、13か月連続のマイナスとなった。1月としてはリーマンショック後の2009年(45,356トン)以来の低水準。3か月連続で対前年比プラスとなった銅管など一部に回復傾向がみられたものの、スマートフォンやデジタル家電の低調を映した主力の銅条などの不振が響いたため来月も期待薄。

## 【電線】

前年比-6.2%の4万6,600 t。

内訳は国内が-5%、輸出が-56.2%。

スマートフォンやデジタル家電の低調の来月も期待薄。

## 【銅輸出入】

23年1月の日本からの銅スクラップ輸出量は1万5,502トンだった。昨年8月以来の2万トン割れとなった。また前年同月比15.5%減少し、2か月続けてのマイナスとなった。

日本からの銅スクラップ輸出は、2023年も輸出量が伸びないスタートだった。主力の中国、マレー向け輸出量も前年同月実績を下回った。ただ、中国向けを中心に、昨秋以降、輸出平均単価が再上昇しており、2023年も上昇で始まった。

## 【スクラップ景況予想】

流通【一次問屋】在庫は今月銅建値が126万から129万と高値安定だったが、中国コロナ規制の影響によるスマホ需要低迷からの生産減・発生減から在庫薄。

需要面に関しては自動車生産販売の回復から一定の需要は出るがスマホ需要の回復が遅れているため需給は緩む。

## 【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。①米の金融政策、②中国景気回復の動向。

①に関しては、米の金融政策に関しては年明け以降強気な雇用統計やサプライマネジメント協会(ISM)製造業景況感指数は仕入れ価格指数が前月から上昇し、インフレ圧力の強さを示す内容だったことから今後も引き締めは続くのではないかと見られる。

②中国景気回復の動向に関しては、中国製造業PMI製造業生産指数が49.8から56.7に急激な改善がされたこと。ゼロコロナ策が終了し感染拡大も治まったことから回復期待がもてるのではないかと見られる。

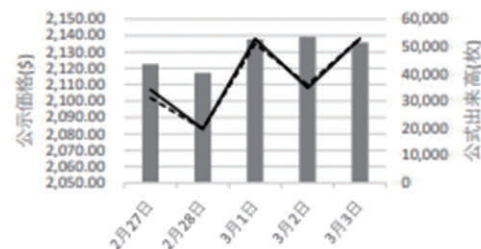
これらを踏まえた3月の銅価格は8,500-9,500ドル(セツル)との予想。

ドル円値は135円~140円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては120万-137万円程度と予測している。(「2月の銅の概況及び3月の見通し」おわり)

## LME公式値週間推移 2月27日~3月3日(現地)

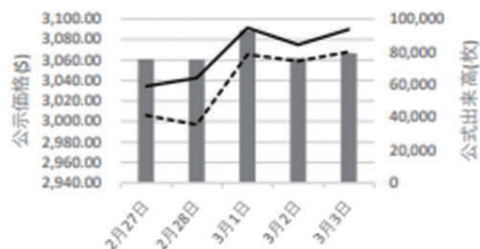
## LME鉛



	2月27日	2月28日	3月1日	3月2日	3月3日
出来高	43,530	40,363	52,611	53,570	51,451
直物	2,107.00	2,083.00	2,138.00	2,108.00	2,138.00
先物	2,102.00	2,083.00	2,135.00	2,110.00	2,138.00

■ 出来高 — 直物 - - - 先物

## LME亜鉛SHG



	2月27日	2月28日	3月1日	3月2日	3月3日
出来高	75,520	75,141	92,891	76,062	79,084
直物	3,034.50	3,042.50	3,091.50	3,075.00	3,090.00
先物	3,006.00	2,997.00	3,065.50	3,059.00	3,068.00

■ 出来高 — 直物 - - - 先物